

特集 姉妹町多良木町との児童交流学習事業

夏の恩返し、冬のおもてなし、 多良木町と南幌町の絆をたしかに



平成22年2月に熊本県球磨郡多良木町と姉妹町が締結されて以来行われている「児童交流学習事業」。今年度も、昨年の7月26日から29日までの4日間、南幌町の児童が多良木町を訪れ、現地の児童たちと様々な交流を通して絆を深めました。今回は2月8日から11日までの日程で、多良木小学校の小林校長を団長とした児童10名の訪問団が南幌町を訪れ、北海道の冬を大いに味わってもらいました。

■2月8日【まさかのアクシデント】

南幌町は雲ひとつない快晴で、絶好の受入れ日和でした。しかし、この日関東地方では45年ぶりの大雪に見舞われていました。多良木町訪問団は、熊本空港から羽田空港を経由して新千歳空港に降立つ予定でした。何とか熊本から羽田へ飛ぶことは出来ましたが、なかなか羽田から飛立つことができません。14時発予定の飛行機は15時、15時半と遅れていきます。飛行機には搭乗しましたがその後も1時間ほど待機となり、16時50分頃、ついに欠航が決まってしまい、この日のうちに南幌町へ到着することができなくな

りました。欠航が決まるのがこの日で一番遅く、翌日の便もすべて満席、キャンセル待ちという状況だったため、児童交流の中止も懸念されましたが、何としても児童を南幌町へ行かせたいという強い思いから、代替の手段を探すことになりました。程なくして、「明日、静岡空港から新千歳空港へ向かう便が1便だけある。」「今日泊まる宿も見つかった。」という連絡を受け、1日遅れで児童交流を始められることが分かり、みんなが安堵しました。



■2月9日【1日遅れの…】

予定どおり静岡空港から飛行機が飛び、無事多良木町訪問団が新千歳空港に到着しました。2日間の移動の疲れも見せず、児童はみんな元気な姿を見せてくれました。その後、歓迎レセプションが行われる南幌小学校へと向かいました。到着は19時を回っていたにもかかわらず、南幌小学校の児童をはじめ、多くの方々が出迎えました。半年振りの再会です！

さんの司会のもと、歓迎レセプションが行われました。南幌小の佐々木胡桃さんが「夏は楽しい経験をたくさんさせてくれました。今度は私たちがおもてなしする番です」と歓迎の言葉を送り、久米小の北崎愛乃さんが「夏につなぐ絆をさらに深めたいです」と訪問の挨拶をしました。この後、多良木町の児童による多良木町の紹介が予定されていたのですが、時間も遅かったため、最終日のお別れ会の際に行うこととなりました。歓迎レセプション終了後、

多良木町の児童はそれぞれの民泊家庭へ向かいました。本来民泊は1日目の予定でしたが、すべての家庭が、急な民泊の変更を快く受け入れてくれたのです。遅めの夕食として、この日の昼食・夕食で予定していたジンギスカンやラーメンを食べた児童もいたようです。また、冬の花火をしたり、かまくらや雪山で遊ぶなど北国ならではの体験もできたようです。



2月9日 歓迎レセプション
 ①司会の南幌小 菊地妃奈乃さん(左)、竹居田彩希さん
 ②歓迎の言葉を送る南幌小 佐々木胡桃さん
 ③レセプション
 ④訪問の挨拶をする久米小 北崎愛乃さん
 ⑤訪問挨拶をする多良木町訪問団長 多良木小の小林正悟校長



T A R A G I
 ● 民 泊 風 景 ●
 N A N P O R O





■2月10日【スキー！雪まつり！温泉！】
民泊家庭での時間は短かったですですが、それぞれの家庭で楽しい一晚を過ごせたようです。
この日は、北広島クラッセスノーパークでスキーを体験しました。多良木町の皆さんはスキーをするのが初めてだったため、最初はうまく滑れず転んでしまう場面もありましたが、インストラクターの指導によりすぐに上達し、最後は南幌町の児童と一緒に滑れるようになりました。天気も良く、気持ち良くスキーが

できました。
スキーの後は、札幌に向かい、昼食としてスープカレーを食べました。南幌町にもスープカレーは初めての児童がいました。肉や野菜がまるごとゴロっと入っていたり、ご飯やスープのボリュームも多かったです。で、食べるのに苦労した児童が多かったです。
昼食の後は、札幌雪まつり会場に向かいました。まず、時計台で記念撮影をしました。この時ちょうど雪がちらつき始め、児童みんなが落ちてきた雪を手に取り、きれいな結晶に見入っていました。大通り会場は人が多く移動が大変でしたが、みんなで移動し、大雪像の前ではいくつかに記念撮影をしました。手作りの大雪像や市民雪像に多良木町の皆さんは驚いていました。また、西5丁目会場ではちょうど「旗揚げゲーム」が行われており、両町の児童が飛び入りで参加する一幕もありました。
雪まつり見学の後は、南



次は何見に行こうか？



イベントに飛び入り参加！



~~~~~ジッピー・ウィンター会場滑り台でみんな大はしゃぎ！~~~~~





幌町に戻り、前日に行われていたジッピイ・ウインター会場の滑り台で遊びました。数人で一緒にゴムチューブで滑り降り、叫び声を上げるなど楽しんでいました。

その後、南幌温泉で1日の疲れを癒し、夕食を終えた後は、民泊家庭を混じえての交流ゲームを行い、更なる絆を深めました。児童交流最後の夜は、両町児童が温泉に泊まりました。名残惜しさを嘯みしめつつ、夜遅くまで語り合ったことでしょう。



■2月11日【お別れのとき】

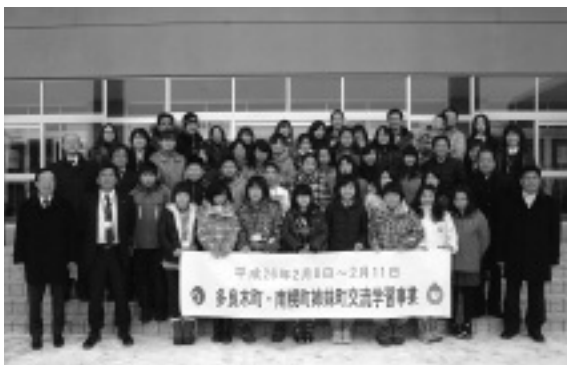
最終日は、南幌小学校音楽室でお別れ会を行いました。最初に、歓迎レセプションで行う予定だった多良木町の紹介が行われました。久米小の山下真未さん、多良木小の椎葉七鹿さん、久保田黎さんの3人から、多良木町の気候や風土・文化、各学校の様子



多良木町の紹介をする久米小 山下真未さん(右)、多良木小 久保田黎さん(中)、椎葉七鹿さん(左)

などが紹介されました。その後、南幌小の有本萌さんと多良木小の岩木未夢さんから「たくさんの交流ができて楽しかったです。簡単に会える距離じゃないけど、また会いに行きたいです」と、お別れの言葉を送りました。正面玄関での集合写真を撮り終えた後は、受入れ家庭ごとに写真を撮ったり、抱き合ったりと別れを惜しむ様子が見られました。みんな手で手を振り、多良木町訪問団を乗せたバスを見送りました。

解団報告式では、南幌小の竹居田彩希さんと菊地妃奈乃さんから、「今回の出会いや人々とのつながりを大切に、今後頑張っていきたい」と児童交流の感想を発表していた。だき、今年度の児童交流学習事業は終了しました。



また会おうね!

■児童交流を終えて：

東京都心の記録的な大雪に見舞われることとなった4回目の児童交流事業も関係者の皆様のおかげで何とか無事に終えることが出来ました。

その東京に降った雪とは違うサラサラの雪に歓声をあげたり、車に付いたつららが下まで繋がっているのを見て不思議がり、どこまでも続く長い道、見渡す限りの真っ白な景色に驚き、雪の下はどうなっているのかと想像を膨らませていました。普段自分たちが当たり前前に思っていることが当たり前じゃないということが多良木町児童は体験でき、南幌町の児童も実感できたようです。

このような経験が子どもの頃から出来るのは、とても幸せなことだと思いますし、子どもたちの今後のよりよい健やかな成長の一助になることを願っています。

